

社団法人 私立大学情報教育協会
平成 21 年度第 3 回経営工学教育 FD/IT 活用研究委員会 議事録

- I. 日 時 : 平成 21 年 8 月 26 日 (水) 17 時 00 分～19 時 30 分
II. 場 所 : 私立大学情報教育協会事務局会議室
III. 出席委員 : 渡邊委員長, 玉木委員, 細野委員, 中島委員, 後藤委員, 井上委員,
稲田委員, 佐々木, (事務局 井端事務局長, 森下, 恩田)

報告事項

1. 新委員の紹介

新委員となられた慶應義塾大学の稲田周平先生のご紹介とご挨拶があった。

2. 日本学術会議の「分野別教育課程編成上の参照基準について」の説明

事務局長より日本学術会議の「分野別教育課程編成上の参照基準について」(資料:参考1～5)の説明があった。日本学術会議として、① 基本的な「参照基準」を策定すること、② 適切な「分野設定」を行うことの 2 点に関して、それぞれの根拠、重要性、課題に触れ、さらに日本学術会議と私立大学情報教育協会のステータスの違いを確認したことが報告された。ステータスの違いに関しては、日本学術会議としては、最高水準(=世界に対する・通用する到達目標)、私立大学情報教育協会としては、最低水準(=minimum requirement)をそれぞれ目指していくことを確認したとの説明がなされた。ここでは以下のような意見交換があった。

(委員長) 参考 1 の 4 ページ 2 つ目の※「力」を考える上で、…(中略)…個別具体的な「スキル」として直接的に転写するような形で同定するようなアプローチについては、一定の距離をとることが重要であると考え。」には、「経営工学」の分野としては非常に違和感がある。

(事務局長)「教育者」としてではなく、「学術者」としての立場から教育を考え、提案している。

※参考資料

- 参考 1 日本学術会議：分野別の教育課程編成上の参照基準について (基本的な考え方)
- 参考 2 日本学術会議：分野別の質保証の枠組みに関する概念図
- 参考 3 日本学術会議：大学教育の分野別質保証の在り方検討委員会 ～今までの審議経過と今後の予定～
- 参考 4 日本学術会議：分野の単位の設定並びに分野の選定についての基本的な考え方 (案)
- 参考 5 日本学術会議：分野別の教育課程編成上の参照基準について (基本的な考え方)

検討事項

1. 学士力の詳細設計

前回(7月25日)の委員会に引き続き、到達目標をイメージしたコア・カリキュラム、到達目標、測定手段について審議が行われた。各委員が資料に基づき説明を行った後、用語の意味を再確認しながら、これまでの議論への修正を行い、これからの展開を模索した。

それぞれの資料に関する補足説明は、下記の通りである。

資料①.1～.3 経営工学分野の学士力指針に基づくコア・カリキュラム案、サービスマネジメント

- ・学士力に対し、科目を配置。測定方法・手段は考慮していない。
- ・学士力 3. に例示した「サービスマネジメント」を詳述。

資料② 到達目標をイメージしたコア・カリキュラム、到達目標、判定手段について

- ・資料提示のみ（作成者欠席のため）

資料③ 経営工学分野コア・カリキュラムについて

- ・アメリカ P.E.の5つの項目に「経営管理」,「環境」の2項目を追加.

資料④「経営工学分野の学士力」の到達度・能力判定・測定方法（その2）

- ・「2. スタンフォード大学経営工学科の学士力」の「A7 効果的にコミュニケーションが図れる能力」,「A8 生涯教育の必要性を理解し,これに従事できる能力」は,経営工学の専門領域としてというよりも,むしろ企業人として最も必要とされる能力である. A8は生涯にわたって自立して学習できる能力,すなわち「自己学習力」のこと.

- ・表2の経営工学専門の学士力の到達目標に「C12 資源・環境問題へのアプローチ」を追加.

- ・「世界」,「現代」の要素を再確認.

- ・「経営工学のコア領域」に「関連科目・演習（伝統的な名称による）」を配置.

資料⑤ 経営工学のコア領域と本学（新潟国際情報大学）のカリキュラムについて

- ・「コア領域」,「周辺領域」の関連付けに関して,「環境的側面」の欠如を指摘.

- ・「学士力」にこれまでの「コア領域」を対応させることは困難.

- ・新潟国際情報大学情報文化学部情報システム学科のカリキュラム（JABEE「情報および情報関連分野」認定）を例に,経営工学分野との関係性を共有.

資料⑥ 経営工学分野の学士力の指針に基づくコア・カリキュラムと到達目標案

- ・学士力の補完（説明）の中に,「リスク」を追加.

- ・到達目標の「JABEE1」は学士力3に移動.

- ・対象システム/マネジメントは,4つの学士力すべてに「情報システム」が含まれる.

- ・事業システムとは,市場・事業戦略→競争戦略→組織形成.

- ・教育方法は,講義,実習,実験,演習のみならず,実務担当者の招聘講演,グループワーク,グループティーチング,フィールドワーク,産学共同研究,卒業論文まで考慮.

- ・学士力4に「世界」というキーワードを追加.

資料⑦ 経営工学の分野別学習・教育における学士力

- ・「知識」と「技能」に分けて内容を抽象的に説明.

- ・学士力4「経営工学に関する」は削除.

- ・説明できる＝理解＋表現

- ・評価尺度（PQCDSMER）

- ・学士力3「知識」戦略・戦術が不足.

ここまでの委員からの資料提示および補足説明に対し,さらに次のような議論があった.

- ・学士力4に「世界」を追加すべきである.

→グローバルとソーシャル,グローバリゼーションとローカリゼーションそれぞれの視点,両方の考え方が必要である.ただし,学部生にとっては少し高いハードルかもしれない.

- ・4つの学士力から科目を派生させていくことは困難である.それぞれの学士力のボリュームも異なれば,ひとつの科目が複数の学士力にまたがることもある.そのため,中間層として「コア領域」を設けることが必要である.

→「コア・カリキュラム」を直接「学士力」にマッピングするのではなく、経営工学としての2段階目の目標を構築し、そこにマッピングすることを考えてはどうか。

→2段階目の目標が、「コア領域」そのものになる。あくまでも「コア」は経営工学の中の括りである。

・「コア・カリキュラム」を設定するに至った経緯は何か。

→到達目標と測定方法を求められているため。

・「学士力の評価すること」というのは、どういうことか。

→科目の評価、レベル設定が重要ではあるが、授業内容等かなり細かいところが含まれてくるため、後の方の作業になるのではないか。ただし方針・枠組みは必要である。

→進め方としては、具体的な科目・内容ではなく、抽象的な表現にとどめたい。

・「科目」が複数の学士力にまたがること、大学の特色等を考慮すると、「科目」から入ることには疑問を感じる。まずは学士力があって、中括りで評価する項目があって、その後各大学でいかに保証するかという流れの議論ではないか。

→評価することに対して、いくつかの科目をあげて測定のための区分を考えていかなければ、その後の測定手法まで到達できない。

参考までに、上記の議論および事務局長の説明から、それぞれの用語に込められている意味、求められている内容を下記にまとめる。

「到達目標」

- ・厳格な絶対的基準ではない。
- ・教育環境も能力も違うことを配慮しながら掲げる目標であるので、大まかなものでよい。

「コア・カリキュラム」

- ・到達目標をイメージしたコア・カリキュラム。
- ・科目名ではない。科目名は共通のキーワードに過ぎない。
- ・あくまでも範囲、科目群。

「測定手段」

- ・到達目標に対して、客観的・標準的に証明する手段。
- ・到達目標に応じて、多元的、多樣的に測定できること。
- ・測定者：その場面に関わる人。
- ・測定の深さまでは求めていない。演繹的に表現できていればよい。

※追加資料：

私立大学情報教育協会平成21年度第1回サイバー・キャンパス・コンソーシアム
「教育分野」の到達目標の設計

2. 今後の検討スケジュール

今後の展開としては、資料⑦を土台にし、事務局より提示された雛形を参考にして、経営工学分野としてのコア・カリキュラムのイメージ、到達度、測定方法のつくり込みを行うこととした。その際、考慮すべき項目は、下記の通りである。

- ・知識・技能に分けなくともよい。
- ・資料⑥「学士力の補完」から、学士力に当てはめ可能な関連するキーワードのグルーピング、ジ

ジャンル作りをすること。

- ・教育方法をより客観的な言葉で表現すること。
- ・学士力に関しては再検討する可能性を残すこと。
- ・対象システム/マネジメントレベルを明確にすること。
- ・いくつかのレベル・段階に構成してもよいこと。

次回の委員会は、10月8日(木) 17時～19時に開催することとし、上記検討内容に関する資料を10月5日(月)までに事務局へ提出することを確認した。